

令和5年度

北大津高等学校 学校評価

本年度の重点目標

- ・「心豊かで逞しい人間の育成」を目指し、社会の一員としての規範意識を醸成し、他者を思いやる心を育てるとともに、確かな学力を備えた生徒の育成に努め、一人ひとりの進路希望の実現を図る。
- ・本校の良さを情報発信し、保護者、地域との連携を深め、全ての生徒が安心・安全に学校生活を送れるように努める。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	学校の方向性を校外外に示し、教員が一枚岩となって「心豊かで逞しい人間」の育成に努めている。	A		
	直面する教育課題に迅速に対応し、教育改革に前向きに取り組んでいる。	A		
2 学習指導	分かりやすいシラバスを作成し、計画的に教科指導に取り組んでいる。	A		
	生徒の学力を正確に把握し、授業内容・形態を工夫して理解しやすい授業をしようと努めている。	A		
3 生徒指導	基本的な生活習慣の確立を目指す指導を適切に行い、自主的に活動する力を育てている。	A		
	いじめ問題へは関係機関と連携し、未然防止・早期発見・早期解消に努めている。	A		
	学年団との連携を密にし、問題行動や教育相談への迅速な指導体制が充実している。	A		
4 進路指導	3年間を見据えた指導体制が充実している。	A		
	進路についての情報提供や面接指導、論文・作文指導が充実している。	A		
5 特別活動等	部活動が活発で、適切な指導が行われている。	A		
	学校行事を充実させ、生徒の自発性を育成することに努めている。	A		
6 学校図書館	図書を整備を行い、入りやすく借りやすい図書館の雰囲気づくりに努めている。	A		
	読書案内や推薦図書リストを定期的に発行し、読書習慣づくりに努めている。	A		
7 保健・安全指導	担任団、保健室、教育相談係が連携を保ち、組織的に教育相談に取り組んでいる。	A		
	保健だよりの定期的発行と保健室での対応により、健康的な生活を指導している。	A		
8 人権教育	人権委員やLHRなどを活用し、生徒の人権意識を育成している。	A		
	特別支援が必要と思われる生徒の情報を共有し、必要な支援を行う体制づくりに努めている。	A		
9 環境教育	日頃の清掃活動などを通して、身の回りの環境美化に対する意識を高めるように指導している。	A		
10 事務・管理	施設・設備の需要および安全点検項目を常にチェックし、施設・設備の充実に努めている。	A		
	情報や文書の管理・保管や個人情報保護の体制を整え、常に開示できる状態にしている。	A		
11 その他 学校の取組み	開かれた学校づくりを目指し、保護者への情報発信に取り組んでいる。	A		
	中学生・保護者・地域や関係諸学校等を対象に、学校の魅力を積極的にPR・発信している。	A		
	海外にある姉妹校等との交流を通して、国際理解教育を進めている。	B		

- (注) ・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
 10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価)A B C Dの4段階評価で示す。
 3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価)A B C Dの4段階で示す。
- ・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
 - ・A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。